

# 日本僑報

報頭題字：原人民日報社長邵華澤先生

總第 66 号 発行 / 日本僑報社 定価 / 300 円  
〒 333-0866 川口市芝 5-6-6 TEL048-432-7332 FAX432-7335  
http://duan.jp duan@duan.jp 編集長/段 躍中



特別報道 中文版新書《涙洒富士山》、《日本歴史研究論叢》等五冊刊行特集……P 8

## 『日中「新思考」とは何か』出版座談会北京で開催 中国社会科学院日本研究所と共同主催 蔣立峰所長司会



蔣立峰所長(右)と朱紹文氏

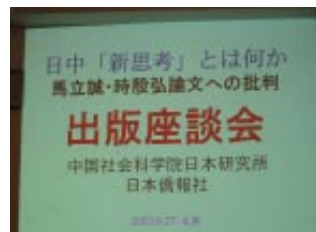
段躍中撮影

関係史学会副会長兼秘書長朱紹文、及び朱紹文、馮昭奎、高海寬、姚文礼など著名な学者が、座談会に参加し、発言した。

共同通信社、朝日新聞、読売新聞、赤旗新聞、NHKなど日本側メディアの北京駐在特派員、新華社、中国新聞社、人民日報、中国青年報など中国側の記者たちが座談会を取材した。

『日中「新思考」とは何か』著者の一人で、人民日報評論員の林治波が座談会で報告した。

元北京市常務副市長・中国抗日戦争史学会会長である白介夫先生も出席した。



『日中「新思考」とは何か』が、10月26日付の日本経済新聞・短評欄に登場した。書評文は次の通り。  
中国のジャーナリスト、馬立誠と学者、時殷弘の両氏が対日新思考外交を提言した論文を、それぞれ昨年末と今春に発表した。これが日本のマスメディアで脚光を浴びるや、中国内ではインターネット論壇を中心に両氏への批判が噴出した。本書はその“代表格”であるジャーナリスト、林治波氏の激しい批判論文と、日本研究者、金熙徳氏により冷静、客観的な日中関係論を併載している。新思考批判を理解する手がかりとなる。

小社の新刊である『日中「新思考」とは何か』出版座談会が、9月27日、北京にある中国社会科学院日本研究所で開催された。

日本研究所蔣立峰所長をはじめ、元所長の駱為龍(現中華日本学会副会長)、副所長の孫新(兼党委書記)、副所長の張進山、中日友好協会副会長の王効賢、中国中日

### 時殷弘著《關於中日關係的戰略性新思考》出版



為了幫助讀者、特別是研究者和報道關係者全面・準確・系統地理解時殷弘先生(写真、中国人民大学國際關係學院教授・同大學美國研究中心主任)的觀點、日本僑報社特別編輯了中日兩國語版《關於中日關係的戰略性新思考》(12月20日發行予定)。希望本書能對對日關係新思考討論起到參考作用。

本書收入時殷弘先生撰写的“中日接近与外交革命”四篇論文、由中国通信社(薛永祥社長)翻訳。